

授業科目名	日常生活援助実習			担当教員	阿部　オリエ、鬼丸　美紀	
開講年次	1 年前期	セメスター	1	時間数(単位数)	45 (1)	
必修選択	必修	授業形態	講義	使用教室		
授業の目的	病院において、治療を受けている対象者への日常生活援助を看護師と共に実施し、日常生活援助の必要性や根拠を理解する。					
到達目標	1. 日常生活援助を受けている対象者の情報を看護師から得ることができる 2. 実施可能な日常生活援助を決定することができる 3. 看護師と共に日常生活援助を実施する対象者に説明し同意を得ることができる 4. 看護師と共に安全・安楽に日常生活援助を実施することができる 5. 日常生活援助の実施や看護師からのアドバイスなどにより、日常生活援助技術の根拠が理解できる 6. 日常生活援助の実施や看護師からのアドバイスなどにより、対象者の自立や個別性に応じた日常生活援助について考えることができる 7. 自己の技術の振り返りを行い、日常生活援助技術に対する課題を明らかにすることができる 8. 看護技術の原理・原則（安全、安楽、自立、個別性、効率性）などに照らし合わせて、自身が行った日常生活援助を考察し記述できる					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	本科目は、本学の実習におけるレベルⅠに該当し、且つ、看護技術Ⅰからステップアップした科目としても位置付けられる。看護技術の中でも日常生活援助における技術の原理原則を理解し、根拠をもって実践し、対象者の自立や個別性に関して視野を広げ、思考を深めることが求められる。よって、看護の専門性を探究する最初の実習科目となる。なお、臨地において初めて入院中の対象者の方々と接する機会にもなるため、人間の尊厳と権利を擁護する力も求められる力となる。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
	○	○		○	◎	
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)		取組時間	担当者
	1. 実習期間 [1クール目] 2019年9月2日(月)～9月6日(金) [2クール目] 2019年9月9日(月)～9月13日(金) 2. 実習場所 福岡赤十字病院、嘉麻赤十字病院、総合せき損センター、宗像医師会病院 3. 実習配置人数 1グループ4名程度。詳細は別途資料 4. 実習の進め方 〈学内オリエンテーション〉 ①実習目的および概要を理解する ②連絡網の作成 ③技術試験の実施　※別途資料配布 〈学内実習〉 ①実習全体についての留意事項 ②倫理教育（ヒヤリ・ハット、個人情報保護など） 前年度ヒヤリ・ハットの傾向について ③実習施設についての留意事項、施設別オリエンテーション ④病院実習に向けての準備、技術練習		【予習】 1. 実習目的、実習概要について確認し、自分の言葉で説明ができるまで理解を深めること 2. 学内オリエンテーション時は必ず実習要項を持参すること。その際、Ⅰ．看護学臨地実習の意義～Ⅹ．実習における注意事項およびレベルⅠまで熟読しておくこと 3. 実習先の情報は HP などから事前に入手しておくこと 4. 既習の援助技術に関しては、知識の復習だけではなく、手技も含めて練習を重ねておくこと 【復習】 1. レポートの記載に関しては復習を行い、必ず教科書以外の参考書を2冊以上使用すること		予習 2時間 	

	〈病院実習〉 4日間（4日目はまとめのため午前中のみの実習となる） [実習後の記録・評価に関するフィードバックについては、レポート評価も併せて担当教員より個別に実施する]			
先行履修科目	看護過程の展開実習			
テキスト	特に指定しない			
参考文献	既習科目のテキスト・資料。特に看護技術に関する文献は、自ら収集・活用すること			
評価方法	技術試験（20%）、実習目標の達成状況（50%）、レポート（20%）、実習態度（10%）			
教員等の実務経験	様々な場で看護師の臨床経験のある教員が、その経験を活かして、日常生活援助の原理・原則における思考について、臨地場でタイムリーに指導を行います。			
メッセージ	大学において、初めての实習科目となります。実習は、臨地の場における授業です。そこで、どのように学習すればよいのか、段階付けて学習します。よって、実習オリエンテーションも大切な授業となりますので、シラバスや実習要項は忘れずに持参しましょう。これらは、段階付けて学ぶための道標となります。また、病院実習においては、既習の日常生活援助を実施するだけでなく、対象者の「個別性」に応じて、既習の学習を応用させることが必要になります。それらは、臨地実習指導者である看護師の指導を受けながら実施することになりますので、安心して学習することができます。日常生活援助を実施するにあたり、対象者とのコミュニケーションや観察を行うことは、基本的な能力として求められます。学内で学んだことを、実習の場でどのように応用するか、かつ、更なる学習のための自己の課題は何かについて、考える機会にしましょう。			